

2017 年 3 月 14 日

## 助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 結

代表者・役職名 氏名 理事長 米倉 三仁



### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

災害等に備え防災グッズの完備

### 2. 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

厳しい養育環境にあるすべての子ども達に対して安全で安心な環境を提供するとともに、望ましい支援を行い、より良い発達を保証し、子どもの健全育成に寄与する事を目的とし、平成23年2月にNPO法人「結」の設立、子ども達に社会的信頼と自己肯定感を醸成し社会的自立をするために自立援助ホームの運営として同年6月に「樹の下ホーム」の開設に至りました。現在、会員数48名。自立援助ホームの定員は6名です。

### 3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可） 250文字程度まで

樹の下ホームではこれまで、非常災害時における緊急連絡や避難方法、場所等の周知と最低3日間の食料品の備蓄や避難用具等を用意してはありましたが、厚労省からの通知を受け、入所児童1人1人の防災セットや災害時における資材の確保等をこれまで以上に徹底して改めて行う事により、児童の安全の確保をより強化する事を目的とします。

### 4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可） 300文字程度まで

これまでは食料品やお水等の備蓄はありましたが、最近頻繁に地震も起こっており、今後はいつ地震や火災などが起きても、入所している児童の安全を確保し最低限の避難生活が送れるように、各自1人ずつと付き添い職員用の防災用品などを完備したいと考えています。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

非常災害時における防災用品の整備の徹底したことにより、子ども達へのより安全な居場所をとなり安心して生活できることに繋がりました。実際の防災用品を子ども達も目にする事はあまり無かった為、退所後の生活スキルのプラスにもなりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

避難訓練や非常用グッズや非常食の作り方等、実際にはなかなか仕様する事がなく、いざという時に備えてグッズなどの使用について対応出来る様、定期的に職員と入所児童との避難訓練や市が開催する避難訓練等にも積極的に参加していきたいと考えております。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特  
になし

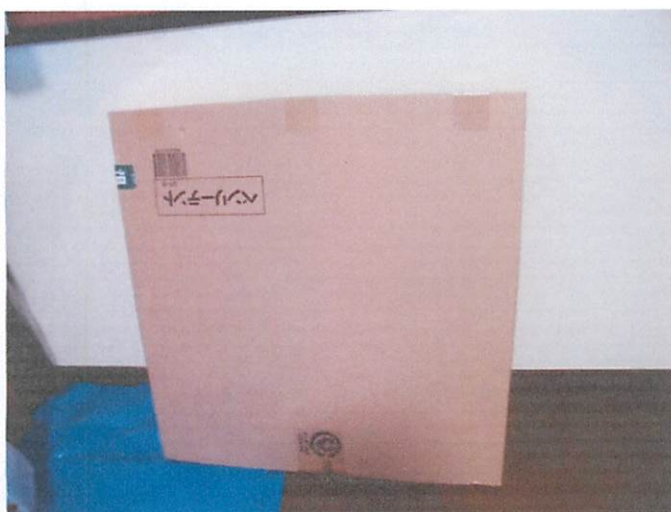
タタメットスキン ×6



ブルーシート ×2



ベンリーテント×1



非常用トイレ (50回分) ×1



フローティングベスト ×7



テント (5型) ×2



テント (3型) 1



LED ライト (大型) × 2



大容量リュック × 3



ロープ (6M) × 1



LED ライト × 2



消火器 × 1

